

各地の練供養

		撮影年月日	場所(現在)		
1	当麻寺練供養会式	喜多文庫資料	1961/5/14	奈良県葛城市當麻	二上山当麻寺
		喜多文庫資料	1967/5/14		
		喜多文庫資料	1984/5/14		
		センター研究員撮影	2006/5/14		
2	矢田寺のお練り供養	喜多文庫資料	1966/4/24	奈良県大和郡山市矢田	矢田山金剛山寺
3	太山寺練り供養 (二十五菩薩聖衆来迎引撮会)	喜多文庫資料	1967/5/12	兵庫県神戸市西区伊川谷前開	三身山太山寺
		センター研究員撮影	2005/5/12		
4	光明寺御忌大会 二十五菩薩練供養	センター研究員撮影	2006/4/23	京都府長岡京市粟生	西山総本山光明寺
5	即成院二十五菩薩お練り供養	喜多文庫資料	1976/10/3	京都府京都市東山区泉涌寺山内町	泉涌寺塔頭即成院
		センター研究員撮影	2006/10/15		
6	大念仏寺の万部法会 (阿弥陀経万部誦聖衆来迎会)	喜多文庫資料	1959/5/6	大阪府大阪市平野区上町	融通念仏宗総本山大念仏寺
		センター研究員撮影	2006/5/5		
7	弘法寺脚供養	センター研究員撮影	2011/5/5	岡山県瀬戸内市牛窓町千手	千手山弘法寺
8	誕生寺会式法要 (二十五菩薩天童迎接練供養会式大法要)	センター研究員撮影	2014/4/20	岡山県久米郡久米南町	浄土宗特別寺院美作誕生寺

志水文庫所蔵 来迎関連資料

1	絵入二十五菩薩功德集	中本	1冊	寛文9	寛文九年に刊行された本であるが、書肆は不明、著者も絵師も記載が無い。他には東大に一本所蔵するのみである。冒頭に「さる隠遁の上人」が説く菩薩の功德を聞き、それを記したという成立事情を説明する序文的文章があり、二十五菩薩の名前・持物・功德などが書かれた後、さらに地蔵菩薩と弥勒菩薩の紹介で本文は終了する。二十七の菩薩の姿はすべて挿絵に描かれている。二十五菩薩だけでなく、地蔵と弥勒の解説が入る点と菩薩の姿が描かれている点が、この本の特異な所であり貴重な所であるといえよう。
2	当麻曼荼羅	紙本墨摺	1幅	寛延二年の識語	
3	当麻曼荼羅	紙本墨摺筆彩	1幅	寛永九年作成の板木を使用	寛永九年(1632)完成した、壇王法林寺(京都)蔵の板木を摺って筆彩を加えた當麻曼荼羅。壇王法林寺は、袋中上人中興の浄土宗の寺である。袋中上人には、當麻曼荼羅に関する著述が複数見られる。
4	迎接曼荼羅	紙本墨摺	1紙	江戸中期	清涼寺蔵の迎接曼荼羅(重文)の模本。博多の善導寺で版行されたことが下端の銘文からわかる。清涼寺の迎接曼荼羅は、熊谷直実が所持していた法然上人自筆の来迎図と伝えられている。
5	阿弥陀二十五菩薩来迎図	紙本墨摺	1幅	江戸後期	上下に来迎の様が描かれている。下方に描かれているのは、阿弥陀如来と菩薩たちが、往生者を迎えに行く姿、上方に描かれているのは、所謂「帰り来迎」で観音菩薩の持つ蓮花に往生者を迎えて、極楽へと帰る姿が描かれている。
6	大津絵 阿弥陀・観音・勢至来迎図	紙本着色	1幅	江戸中期	大津絵は、近江国(滋賀県)の追分や三井寺付近で売られていた素朴な筆致の版画である。有名な図柄に鬼の念仏や藤娘があるが、神仏の姿を描いたものもある。本図は阿弥陀如来と観音・勢至の来迎を描いている。
7	阿弥陀聖衆来迎図	紙本墨摺	1幅	江戸中期	阿弥陀如来と十体の菩薩が来迎する姿を描く。先頭の菩薩が蓮華を持っているので、観音菩薩である。
8	阿弥陀三尊来迎図 下二二僧	紙本墨摺	1幅	霊雲寺所蔵の板木の筆摺	霊雲寺所蔵の板木を、三井敦生氏が摺ったもの。板木は、京都で一括して売りに出されたものである。阿弥陀三尊の下に描かれている僧は、天台祖師か。